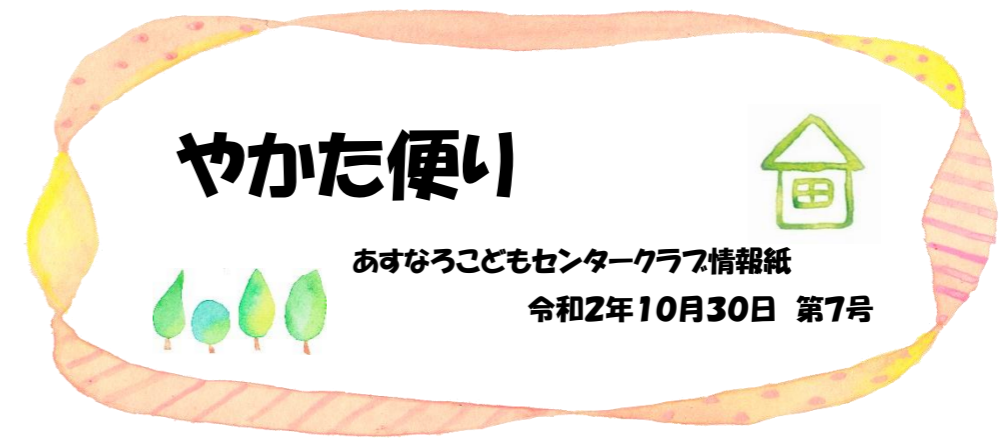


11月予定

18日(水)リレー大会  
※今年もAグラウンドで開催します。詳細は後日クラブ掲示をおこないます。



# やかた便り

あすなろこどもセンタークラブ情報紙

令和2年10月30日 第7号

## 重要なお知らせ

### ◇ 欠席連絡について

#### ① こどもセンターに連絡を入れる (電話又は連絡用紙の記入)

朝8:30~電話連絡を受け付けています。  
なるべく午後2時までに連絡を入れてください。

#### ② 小学校に連絡を入れる

(連絡帳等、学校で示されている方法で連絡してください。)

※①②の両方に連絡をお願いします。

☆今後もどちらかだけの場合は、こどもの安全を考えてクラブへ連れて帰ります。

※連絡帳で確認できましても、学童クラブへの連絡がない場合は、連れて帰ることになりますのでご了承をお願いします。

### 「相手の立場で考える」

10月に入り秋を感じる冷たい風が吹くようになり、一気に紅葉が進みました。大人もこどもも体調管理には気をつけていきたいものです。

先日、6年生の息子と「自分の頑張っていることはなにか」という話になりました。すると息子から「勉強、家の手伝い、水泳…」等、幾つか出てきたのですが、それを聞いて「勉強するのは当たり前だし、他の事も、もう少しがんばったらいい結果になるんじゃない？」と私が言葉を返すと「俺はちゃんとしてるし」と少し不機嫌な息子。親としては、励ましの意味を含め「やればできる」という期待の表れとして声をかけたつもりなのですが、不機嫌になった姿をみて、私の言葉は否定的になっていたと思いました。

自分では否定しているつもりはないと思っても、受け取る側の捉え方によっては相手を否定してしまうこととなります。後で弁明できる機会があればまだいいのですが、弁明できなければ相手を傷つけてしまい、『自分はダメなんだ』と、自己肯定感を損なわせることにも繋がります。

当たり前とは、頑張れとは、誰の基準で伝えるのでしょうか。ふっと考えた時にそれらの言葉は全て『自分基準に物事を考えていることなのではないか』と気づかされます。自分なりに頑張っている息子に「もう少しがんばれ」と言ってしまった私の言葉は、息子からすると「自分を認めてもらえてない」と思ったのかもしれない。

自己肯定感を高めるためには「ほめる・認める」ことが大切だと感じます。もちろん、社会的に許されない姿や行動をした時にはほめたり、認めたりすることはできませんが、それ以外では「それでいいよ」「頑張ってるね」等、誰かと比べるのではなく、その子なりにしている姿をほめて認めることで、自己肯定感を育むことができるようになるのではないのでしょうか。

この会話をきっかけに、私も親として伝えるべきこと(躰)はあるかもしれませんが、相手の立場に立って気持ちいい言葉を遣い、自己肯定感を育てていきたいと改めて思いました。

池田 裕樹

### ちよこっとコーナー

“スポーツの秋”ということで5人こども VS 筋トレが趣味の牧支援員で腹筋対決をおこないました。こどもたちは30秒間の総合計、牧支援員は、1分間でどれだけできるかで競いました。結果は **75対57** でこどもたちの勝利でした。大喜ぶすることもちと本気で悔しがっていた牧支援員なのでした。



特集  
~アンドロメダクラブ編~

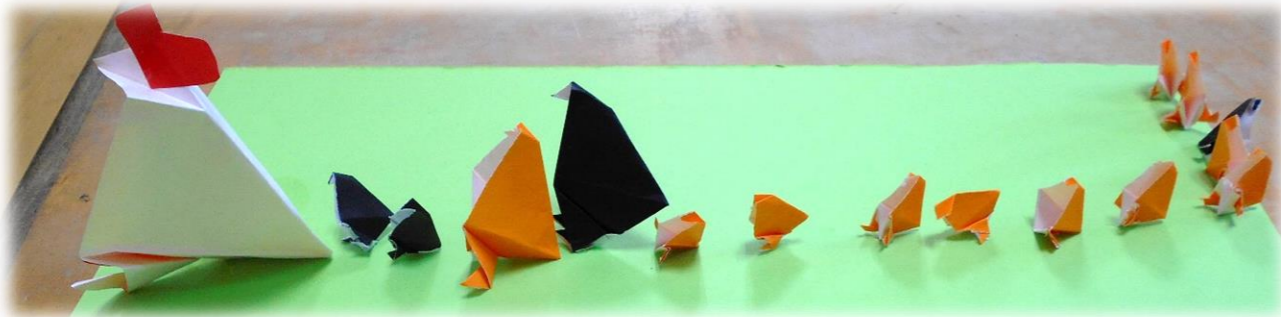
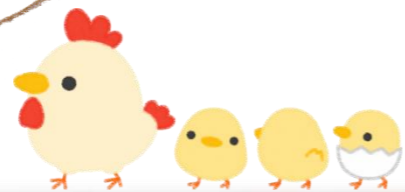
作品の宝庫です。



一枚の紙をコネてコネて、そこから丸めたり切ったりちぎったり、パンの種類によって質感を変えて作ります。「これはアンパンで、これはホットドック」と、出来上がりは、お見事です。

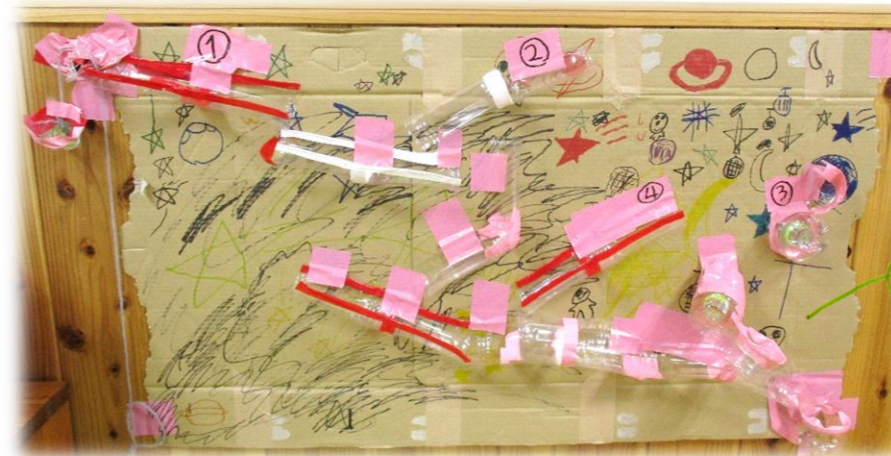


折り紙を折るだけでなく、並べることで素敵な作品の完成です。折り紙の大きさだけでなく、色や折り方、歩く様子を変える工夫もしています。



玉落としができる『くみくみスロープ』で、自分オリジナルのコースを作っています。球が転がる長さや速さ、下に落ちるタイミングや音は大人が見ていても飽きません。

カプラで大作を作りました。固い木（カプラ）で、タコ（軟体動物）を表現するのは難しかったみたいですが、見本を見ながらしたとはいえ、見事な曲線を作り出しています。



ペットボトルとビニールテープ、ダンボールを使って、ピンポン玉転がし機（ピタゴラスイッチ）の出来上がり。身近な物だけで遊びを展開することができるなんて、こどもは「遊びの天才」ですね。

観覧車みたいな素敵な車



LAQ も組み合わせ次第で強そうなロボットに変身！



来月号からは新しい企画をします。お楽しみに。

To be continued